教室から黒板を撤去
3台の巨大ディスプレイで全科目の授業をICT化

2010年度から教育のICT化を進め、18年度から順次、黒板を撤去した瀧野川女子学園中学高等学校。通常の何倍速ものスピードで授業が進み、21年度の大学入試改革初年度には前年度の4倍の合格実績、22年度入試では年内合格率80%以上、※平均勝率67%という驚異の結果を出した。その仕掛けについて、山口龍介副校長にうかがった。

通常の2倍速で進められるICTを活用した授業

2021年の大学入試改革以降、総合型選抜が注目されている。特に独自のカリキュラムを取り入れることに積極的な中高一貫校では、多彩な活動環境を整え総合型選抜に向けた対策に力を入れる学校が少なくない。しかし、年内現役合格率80%以上を誇る瀧野川女子学園中学高等学校の好調な実績を生んだ対策は、一般的な総合型選抜対策とは少し違った。

「大学受験では6～7校、多ければ10校ほど受けるのが一般的ですが、本校の生徒は平均2・2校受けた段階で志望校に受かっています。その中には上智大など難関校も入っています。11月には受験が終わって、晴れやかな気持ちでクリスマスを迎えられる生徒が8割もいるのです」とは山口副校長だ。入試結果によっては、複数の併願校に入学金を支払わなければいけない保護者にとって朗報だ。だが、生徒たちにとって嬉しいのは、実社会で自分のやりたいことを実現させながら、幸せになるための力が卒業時についていることだろう。

その仕掛けの源は「教育のICT化」だ。黒板を撤廃し、ディスプレイ3台を使って進められる授業。生徒たちも当然タブレットとタッチペンで臨む。板書にとられる時間がなく、冒頭の5～10分で通常の授業スタイルは終了し、授業で理解したことを実践的なワークショップ形式で議論する。たとえば、数学が不得意でも、グループには得意な生徒がいるので一緒に数式を検討しながら学べる。

副校長 山口 龍介 先生

「話し合いの経緯は、タッチペンで記した手書きのメモも含め、すべてタブレットに残されているので、話し合い後の発表も瞬時にクラスで共有されて進みます。表現力から考える力、読み取る力など1日6時間、これを全科目でやっているので、彼女たちにとっては日常なのです。通常の2倍3倍の速さで学ぶトレーニングができています」。

創造性教育で仕事は自分で生み出す

また、英語科には9名のネイティブと5名の日本人教師がつく。「ネイティブ9名のうち7名は教員免許を持っており、単独で授業に入ることができます。授業も英語で話し合いながら進むので、みんな使えるのが当たり前になります。そのため、総合型選抜の面接時、英語で話しかけられても、とっさに英語で返せます」と山口副校長。「毎日留学」のキャッチコピーは伊達でない。

生徒に「なぜ勉強するの？」という問いはないそうだ。

「高1の進路講演では、起業したり、新しい仕事を会社で始めたりするとどれだけ世の中を変えられ、よりよい社会に導けるのか話します。勉強すれば自分にとっていい人生を生み出すことができるのだと事実として理解し、どういうプロセスを歩めば自分の人生のために必要な業界やそこでのポジション、大学の専攻が得られるのか真剣に考えるようになります」（山口副校長）。

そこで活躍するのが、同校の「創造性教育」だ。起業を体験する中で新商品を生み出したり、株式の仕組みを学び、資本主義を学ぶ。

「間違えてもいいから、みんながやりたいことに挑戦する中で成功は生まれます。だから、本校ではみんながオープンに話し、教員から生徒へのダメ出しも禁止しています。生徒たちにもネガティブ発言は禁止だよと言っているのですよ。その生徒さんならではの思いをもって入学されることを楽しみにしています。」

※平均勝率は「大学合格延べ数/大学受験延べ数」で算出。

お問い合わせ 瀧野川女子学園中学高等学校 TEL.03-3910-6315

説明会・公開行事についてはHPにてご確認をお願いします。

本記事は『日経ビジネス／日経トップリーダー特別版 AUTUMN.2022〈東京ストーリー教育特集号〉（日経BP）』に記事体広告として掲載されたものです。